

# 「出前講座」テーマ一覧

平成28年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
1	とっとり文化財紀行	仏像、建造物、史跡、民俗芸能など、県内に残る文化財を紹介しながら、歴史遺産(文化財)からみた鳥取の歴史と文化を語ります。近代化遺産など最新の文化財の世界の広がりについてもお話します。	中原	概説
2	とっとり古代びと、千年の記憶～妻木晩田遺跡・向山古墳群・上淀庵寺～	霊峰大山の麓・淀江の地は、古代出雲世界の東の玄関口でした。ここには弥生時代の妻木晩田遺跡、古墳時代の向山古墳群・石馬、飛鳥時代の上淀庵寺といった、約千年間も繁栄した遺跡が数多く残されています。これらの遺跡の発掘調査成果を通して、この地に残された古代びとの記憶(歴史)をたどります。		
3	県内出土の古代繊維について	青谷上寺地遺跡出土の繊維をはじめとした、県内出土古代繊維の概要について紹介します。	原田	
4	発掘調査からみた古代の鳥取について	鳥取県内の発掘調査の成果を中心に、古代の鳥取のようすについて身近な遺跡を中心に説明します。	八峠	
5	鳥取民窯のルーツをさぐるー鳥取藩内で生産されたやきものー	幕末期の鳥取藩内では、因久山焼、牛ノ戸焼、浦富焼、浜坂焼、日下部窯など、多数のやきものが生産されました。窯跡から出土した陶片などからその歴史や製品の特徴について解説します。		
6	土器のはなし	鳥取県の事例を取り上げながら、時代ごとの土器の特徴や製作技法の移り変わりを体験活動なども取り入れて小学校高学年・中学生向けに解説します。	原田	
7	三徳山の埋蔵文化財	名勝及び史跡三徳山では近年発掘調査が行われ、これまで知られていなかったかつての姿が少しずつ明らかになりつつあります。これの成果を紹介し、三徳山の新たな魅力を紹介します。	濱	
8	遺物の保存について	発掘調査によって土中から掘り出された様々な遺物は、どのような処理をへて保存されるのか。木製品を中心に解説します。	荊尾	
9	古代・中世の食事の話～グルメな古代・中世の人々～	広大な中世の畠跡が見つかった長瀬高浜遺跡など、食糧生産跡が見ついている鳥取県。それらの発掘調査成果をふまえ、意外にグルメな古代・中世の人々の食事について解説します。	中山	
10	鳥取県内の砂丘遺跡	鳥取県内で発見されている砂丘遺跡について、その概要を解説します。	久保	

# 「出前講座」テーマ一覧

平成28年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
11	土師百井庵寺は誰が建立したのか？	出土した瓦や鴟尾などから建立者を推測します。	久保	概説
12	大権寺庵寺と伊福吉部氏について	大権寺庵寺から出土した瓦などから伊福吉部氏との関わりを解説します。		
13	三徳山と大山-山の信仰の地域史-	「三徳山」と「大山」は、鳥取県の中西部、伯耆の国の象徴として、多くの人に信仰された霊峰です。そして、山腹に建立された「三仏寺」と「大山寺」には優れた文化財が伝わり、山中には今も多くの遺跡が眠っています。この2つの寺院に伝わる文化財や、三仏寺と大山寺の勢力争いを素材としながら、2つの山をめぐる地域の歴史を紹介します。	濱田	
14	地域に残る知られざる歴史	うちの近くには歴史的なものなど何にもないと思っておられる方が多いのでは？いえいえ、そんなことはありません。昔があってこそ今がある。地域に残るさまざまな歴史について紹介します。	中森	
15	お墓の話	古代から現代まで、人を葬る行為は繰り返し行われてきました。その繰り返しのなかで、お墓の形やその上に立てるもの（石造物や卒塔婆）が変わり、地域的な特色も出てきます。地域的な姿から西日本のようすまで、さまざまなテーマについてお話しします。		
16	歴史の道を歩こう	その昔、物の運搬や人々の往来に使われた道を「歴史の道」と呼んでいます。「歴史の道」は、ひっそりと通る人の少ない路地や山道として残っており、沿道には石造物、建造物などによって当時のたたずまいを見ることができます。「歴史の道」を通じて地域に残る歴史をご案内いたします。	大川	
17	むきばんだ村の見所 NOW!	発掘調査や分析の成果から、どのように'むきばんだ村'が整備されてきたのか、特に、復元された竪穴住居や高床倉庫といった建物については、担当者が代わりにこたわって作った部分など見所をお伝えしたいと思います。修理担当として建物の日々のメンテナンスや、修繕の様子など、現在進行中の作業の苦労話もとびだすかも。	長尾	
18	遺構の露出展示について	妻木晩田遺跡における遺構露出展示技法の研究成果を中心に、土質遺構の実物展示の方法と、現状での課題についてお話しします。		
19	発掘調査出土品が展示されるまで	発掘調査の出土品のうち、土器は破片で見つかることが多く、パズルのように組み立てて元の形に復元しています。また、金属や木の道具などはそのままでは錆びたり腐ってしまうため、傷みがひどくならないように科学的な保存処理を行う必要があります。博物館などで展示してみなさんにご覧いただくために、どのような処置をおこなっているのか紹介します。		
20	見えてきた湖山池南岸の歴史～鳥取西道路発掘調査から～	縄文時代から古代にかけての湖山池南岸地域の歴史を、鳥取西道路の最新の発掘調査成果を紹介しながら解説します。	野口	

# 「出前講座」テーマ一覧

平成28年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
21	石器の作り方	旧石器時代から弥生時代までの石器作りの変化を、鳥取県で確認されているものを中心に、実演しながら解説します。	高橋	旧石器
22	山陰の旧石器時代	旧石器時代の山陰地方の様子について、県内や周辺地域の資料を基にお話しします。日本列島の旧石器時代の概説についてもお話しします。	北	
23	山陰の縄文時代の暮らし	湖山池周辺や大山山麓での近年の発掘調査資料などを中心に、山陰の縄文時代の様子についてお話しします。	北	縄文
24	縄文時代の落とし穴猟 -大山山麓を中心に-	縄文時代には、イノシシなどの獲物を捕らえるために落とし穴を使った罠が行われていました。鳥取県は中四国地方の中でも最も多くの落とし穴が見つかっており、その大半が大山山麓に分布しています。発掘調査された遺跡の事例を紹介し、当時の落とし穴猟について解説します。	濱	
25	鳥取東部における農耕社会のはじまりについて	縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての大きな変化については、鳥取県東部に関しては不明な点が多かったが、近年の発掘調査において良好な資料が発見され、明らかになりつつあります。こうした最新の資料を用いて当該地域のこの時代における展開について説明します。	下江	縄文 弥生
26	弥生時代の土器について	発掘調査の成果を元に、鳥取県で出土する弥生時代の土器の特徴についてお話しします。	濱本	弥生
27	青谷上寺地遺跡にみる弥生人の願いと祈り	弥生の人々の願いや祈りについて、卜骨や祭祀遺物など、青谷上寺地遺跡の出土品や調査成果から考察します。	北浦	
28	秋里遺跡の弥生時代の井戸	秋里遺跡からは弥生時代後期(約1800年前)の木製の井戸枠と配石をもつ特殊な井戸が見つかりました。調査の結果わかった井戸の設置工程や廃絶の様子を説明し、全国の井戸の出土例と比較を行います。	柁家	
29	自然への備えと挑戦 ~青谷上寺地遺跡の土木技術と現在~	弥生時代、青谷上寺地遺跡は幾度も自然災害に襲われました。発掘調査で明らかとなった当時の土木技術を通して、自然に立ち向かった弥生人の「備えと挑戦」に学びます。	君嶋	
30	「破鏡」の話 ~鏡にこめられた思い~	青谷上寺地遺跡や妻木晩田遺跡からは、青銅製の鏡の破片(破鏡)が見つかりました。破片となっても大切にされた鏡、そこにこめられた弥生人の思いについて他地域の事例も踏まえながら解説します。		

# 「出前講座」テーマ一覧

平成28年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
31	弥生農耕事始	日本列島で本格的な水田稲作が始まった弥生時代。当時の農耕はどのように行われたのでしょうか。青谷上寺地遺跡から見つかった多量の木製農具を中心に解説します。	君嶋	弥生
32	青谷上寺地遺跡の船	弥生時代の「港湾集落」青谷上寺地遺跡から出土した船材の調査研究成果を基に、船を漕ぐ弥生人の視点から、当時の環日本海交流の実態に迫ります。		
33	砂に埋もれた大集落 ～長瀬高浜遺跡の紹介～	弥生時代から中世までの幅広い時代の遺構が見つまっている県中部の長瀬高浜遺跡について調査結果をもとにして紹介します。	中山	
34	弥生時代の家について	弥生時代には様々な形の家がありましたが、終わり頃には隅の丸い四角い形に統一されていきます。こうした形の変化と建物の上屋構造の変化の関係について、焼けた竪穴住居を素材として紹介します。	馬路	
35	淀江潟と東郷湖 周辺の弥生時代から古墳時代の集落	鳥取県にはたくさんの潟湖が存在したことがわかっていますが、その中から淀江潟と東郷池周辺の弥生時代から古墳時代の遺跡を取り上げて、集落の様子や社会のあり方について、両地域を比較しながら紹介します。		
36	「弥生の王国」 鳥取のすがた	「弥生の王国」鳥取での発掘調査の様子や、そこから見える人々の生活の姿、妻木晩田遺跡でのムラの復元について語ります。	岡野	
37	妻木晩田遺跡 -甕る弥生の国邑-	全国屈指の大規模な弥生時代集落、妻木晩田遺跡の発見史。そして、発掘調査を通じてみえてきた居住域や墓域、魏志倭人伝に記された倭国の時代に、最盛期を迎えた集落像について論じます。	濱田	
38	県内出土弥生時代の 絵画資料について	県内出土の新資料を交えながら、弥生人の描いた絵画の特徴について紹介します。	長尾	
39	ふしぎな弥生土器から 見える環日本海交流	弥生時代後期(約1,800年前)の限られた時期に「台付装飾壺」と呼ばれているふしぎなかたちや文様のある土器が、因幡地方を中心に西は香岐島から東は富山県までの広い範囲で分布しています。 この土器を通して、弥生時代の人々の交流や土器にこめた願いを見つめてみたいと思います。	松井	
40	ふしぎな弥生土器が語る 鳥取県の弥生時代	弥生時代後期(約1,800年前)を中心に、鳥取県域ならではの特徴的な土器が出土します。 この土器がどのような目的でつくられ、使われたのかを通じて、この地域の弥生社会の特徴を考えてみたいと思います。		

# 「出前講座」テーマ一覧

平成28年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
41	弥生時代のお墓とムラ	弥生時代の後期(約1,900年前から1,750年前)の鳥取県域のお墓とムラの有り様から、古墳時代前夜の階級社会への階段を登りつめつつあった弥生時代のようなすを見つめます。	松井	弥生
42	鉄器からみた弥生時代の山陰	全国的に見ても屈指の出土量を誇る鳥取県そして山陰地域の弥生時代鉄器。そこからみた山陰地域の弥生時代社会について「日本海沿岸地域との交流」をキーワードに紹介します。	高尾	
43	東郷池周辺の歴史と環境	かつて潟湖であった東郷池の周辺は、弥生時代以降、大規模なムラや大型古墳、中世には荘園、近世には鳥取藩の藩倉が置かれるなど、歴史的に地域勢力の拠点となる重要な地域でした。時代ごとにその姿をたどりながら、いにしへの鳥取の姿を考えます。	岡野	弥生以降
44	「こども」の埋葬	弥生時代から古墳時代の埋葬施設には様々な規模や形態があります。その中でも「小さい埋葬施設」(土器を使用した棺など)を中心に取り上げ、当該期の墓制について説明します。	森藤	弥生～古墳
45	石馬物語	本州では唯一の存在であり、1500年前の九州と山陰の交流を物語る米子市淀江町の石馬(重要文化財)について、淀江の古墳文化とともに語ります。	中原	古墳
46	鳥取県の前期古墳～山陰古墳時代の幕開け～	多様性に富んだ鳥取県の前期古墳について周辺地域とも比較しながら検討し、山陰地方の古墳出現の謎について解説します。	君嶋	
47	古墳時代の炊飯具	古墳時代の炊飯具のひとつ、移動式かまどについて最近の鳥取県の発掘調査成果などを含め紹介します。	野口	
48	白鳳の精華～上淀廃寺跡にみる古代寺院の実像	彩色仏教壁画の発見で話題となった上淀廃寺跡の発掘調査成果から明らかになった白鳳時代の地方寺院の姿を紹介し、古代山陰の先進性を探ります。	中原	飛鳥

# 「出前講座」テーマ一覧

平成28年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
49	青谷横木遺跡から出土した木簡等について	青谷横木遺跡から出土した木簡等から遺跡の性格等について解説します。	山卍	古代
50	青谷横木遺跡の出土文字資料	青谷横木遺跡から出土した文字資料(木簡・墨書土器)を紹介し、古代の青谷横木遺跡について解説します	梅村	
51	会下・郡家遺跡の古代	平安時代の大きな建物跡や、限られた場所でしか出土しない緑釉陶器が見つかった会下・郡家遺跡のようすについて、分かりやすく解説します。	田中	
52	古代の役所と寺院	近年行われた伯耆国会見郡衙の発掘調査成果を中心に鳥取県内の古代における役所や寺院について解説します。		
53	たたら製鉄の源流を探る	最新の調査成果をもとに鳥取県内の古代・中世における鉄生産について説明し、たたら製鉄の源流に迫ります。	坂本	
54	青谷横木遺跡からみた古代山陰道のすかた	青谷横木遺跡で発見された古代山陰道は、当時における最高水準の土木技術が駆使されつくられたことが明らかとなっています。最新の調査成果から古代山陰道の実像に迫るとともに律令国家の地方支配について考えます。		
55	古代・鳥取の塩づくり	鳥取県内から出土した塩を作るための土器をもとに、海水から塩ができるまでの工程や、塩が運ばれた遺跡、その使われ方などについてみていきます。	八峠	
56	古代の祈り	青谷横木遺跡から出土した木製祭祀具を中心に、青谷平野で出土している木製祭祀具を解説します。	岩垣	
57	古代から中世にかけての土製炊飯具	鳥取県の東部から出土した土器を中心に、煮炊きに使用した道具の移り変わりについて紹介します。	玉木	
58	検地帳から中世の景観を復元する	日南町の笠木地区には江戸時代初めの検地帳が完全な形で伝えられています。その解読から復元できた中世笠木郷の景観と、現地に今も遺る面影を紹介します。	高橋	

# 「出前講座」テーマ一覧

平成28年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
59	因幡・伯耆における中世の屋敷と墓	鳥取県内で行われた発掘調査の成果から明らかになった、古代から中世にかけての集落や墓などの移り変わりのようすを紹介します。	八峠	中世
60	山陰東部の海城について	山陰海岸ジオパークは世界でも有数の地質遺産を含む地域ですが、その地形を利用して中世、特に戦国時代には多くの海城が築かれました。当時の景観を復元しつつ今も残る海城について紹介します。		
61	地下式坑について	地下式坑の機能については、墓という説がありますが、墓ではないという説もあります。ここでは、鳥取県内で見つかった地下式坑を紹介し、地下式坑の機能について考えてみます。	荒川	
62	山陰地方の石造物について	道や田畑の脇、墓地の一角などいたるところにある五輪塔や宝篋印塔。それらをよく見てみると、実は形や大きさ、使われている石などいろいろ違っていることがわかります。それはつくられた時期や地域による違いであり、山陰におけるそうした様相を紹介します。	中森	
63	中世陶磁器を考古学的にみようと	とかく陶磁器というと、博物館に飾られている「美術品」、あるいは「骨董品」を想像される方が多いのではないのでしょうか？ところが発掘調査をしていると、そうしたお宝の割れた破片が結構出てくるのです。何故そのような陶磁器が出るのか？誰が使っていたものなのかなど、その価値だけでなく、そこにある意味などを考古学的に鑑定します。		
64	鳥取県のお城の魅力	地域のシンボルともいえるお城。その魅力に迫るとともに、天神山城・鳥取城・米子城など発掘調査された事例を中心に、城の構造や瓦・陶磁器といった出土遺物などについて紹介します。	大川	
65	戦国の因幡・伯耆 —城郭探訪—	鳥取県内にはかつて、約500のお城が築かれていました。その多くは石垣を持たない山城で、県内各所に存在しています。意外と身近な存在、お城の魅力をご紹介します。		
66	戦国の知将 亀井茲矩	戦国時代末期～江戸時代初頭にかけて因幡国西半を治めた亀井茲矩は、新田開発や治水、朱印船貿易、鉱山開発など様々な事業を行った戦国大名として知られています。これらの事業の痕跡は今も残っており、それらを紹介しながら、亀井茲矩の実像に迫ります。	下江	
67	鳥取池田家32万石 —揚羽蝶の時代—	江戸時代を通して因幡・伯耆を支配した鳥取藩(池田家)は、32万石という全国でも12番目に位置する大藩でした。鳥取藩の政治・経済・文化の実像を資料から探ります。	中原	江戸
68	鳥取藩台場探訪	江戸時代末期、黒船来航による緊張から幕府・諸藩により海岸砲台(台場)が築かれ、鳥取藩でも9ヶ所の西洋式台場を構築、現存する6台場跡が国史跡に指定されています。これらの台場跡と絵図等から、当時の攘夷思想と西洋化について考えます。		

# 「出前講座」テーマ一覧

平成28年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
69	とっとりの鉄道遺産 -若桜鉄道と法勝寺電車-	鉄道遺産は、近代化遺産あるいは産業遺産としての文化財的価値が認められています。現役の鉄道遺産として国登録有形文化財となっている若桜鉄道と、廃線となった鉄道遺産として車両等が県保護文化財に指定されている法勝寺電車を取り上げて、とっとりの鉄道遺産の魅力をさぐります。	中原	近現代
70	被災地の考古学 ～東日本大震災復興支援調査の現場から～	東日本大震災で大きな被害を受けた福島県。地震発生後5年が経過し、復興に向けた取り組みが徐々に進んでいます。これまでの復興事業に伴う調査成果、遺跡から災害をどう学ぶか解説します。	小口	
71	火の神様の話	人々は生命や財産を脅かす火事为了避免のため、火の用心をするとともに人知を超えた加護を願って火の神様への篤い信仰をしてきました。その中でも京都から広がった愛宕信仰について、鳥取県内の特色ある行事を紹介しながらお話しします。		
72	鳥取の年中行事	毎年繰り返される年中行事、そこには五穀豊穡や厄災除去など、昔から大切な願いが込められてきました。今でも守り伝えられている国・県指定無形民俗文化財を中心に、特色ある鳥取の年中行事を紹介します。	原島	
73	鳥取の民俗芸能	鳥取県内各地域に伝わる多彩な民俗芸能。民俗芸能という言葉には馴染みがなくても、お祭りや踊りの太鼓や笛・鉦の調べを聞くと、自然と心が浮き立つ人も多いでしょう。そんな魅力ある民俗芸能について、特色や見所を映像を交えて紹介します。		
74	建築から見る生活のうつりかわり	地域性や人々の生活を映し出す、住まい。そこには様々な社会的背景や生活のための工夫を見ることができます。住まいを通して、鳥取県内の江戸時代からの生活の変化を、他県の例も交えてお話しします。		その他の文化財
75	近代の文化遺産 ～近代化遺産と近代和風建築～	鳥取の近代化を支えた近代化遺産と、近代和風建築。二つの総合調査の結果をもとに、近代の社会的背景と歴史的建造物を、地域性と絡めてお話しします。	松本	
76	身近な文化財建造物を活用する	平成8年から国レベルで始まった、所有者主体で「活用しながら保存する」ための登録文化財制度。県内外の活用例と、登録制度の可能性について紹介します。		
77	台北の植民地建築見て歩き	日清戦争(1,894-1,895)の結果、日本の植民地となった台湾。植民地化後、台湾総督府などの日本人建築家によって多くの近代洋風建築が建てられました。台北には官衙建築、学校建築をはじめとする多くの近代洋風建築がいまも多く残り、しかもそのほとんどが当時とほぼ同じ目的で使われたり、リノベーションされて保存活用されています。 ツアー観光ではまず見るチャンスがほとんどない、そうした建造物をご紹介しながら、南国、台湾ならではの近代洋風建築の特徴もご紹介します。	松井	

# 「出前講座」テーマ一覧

平成28年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
78	まちの個性を物語る近代建築を訪ねて	日本国内で震災や空襲の被害を逃れた都市には、その都市のなりたちを特徴づける近代建築が残っています。学園都市として学校建築に特徴があったり、軍港としての工場や倉庫などに特徴があったり・・・ そうした近代建築から垣間見ることができる昭和前期までの各都市の成り立ちの特徴について、建物の個性を通じて見つめてみたいと思います。	松井	その他の文化財
79	溪流の王者「オオサンショウウオ」について	溪流の中の百獣の王とよばれるオオサンショウウオ。山奥の池に人知れず生息していると思われがちですが、実は私たちの身近な河川で生活しています。謎の多いオオサンショウウオの知られざる実態や生活環境について紹介します。	中山	
80	日本遺産制度とこれからの文化財活用	平成27年度から始まった「日本遺産」。第一号に鳥取県の「三徳山・三朝温泉」、第二号に「大山」が認定されて注目を集めるこの制度は、2020（平成32）年の東京オリンピック開催までに全国で100件の認定が目指されています。これまで点で保存活用されてきた文化財を面（エリア）としてストーリー立てして地域の歴史や文化的魅力を観光資源としても活用しようという「日本遺産」。この制度の後押しを受けてこれからの日本の文化財行政がどのように変わり、あるいは広がろうとしているのかを考えてみたいと思います。	松井	
81	和紙のはなし	ペーパーレスといわれる昨今。とはいえ、やはり紙は我々普通の生活において身近な存在であり、また一昨年には和紙がユネスコの世界無形文化遺産に登録されたことで、改めてその生産技術が注目されています。 日本において紙が生産され始めたのは飛鳥時代のこととされますが、その後遅くとも奈良時代の後半には鳥取（当時は因幡・伯耆の2国）でも紙が漉かれ、奈良県・正倉院には今もその時の記録が残っているほどです。 伝統的な紙漉き技術が全国的に減少していく中、県内では鳥取市青谷町と佐治町の2箇所が続けられており、鳥取県指定無形文化財になっています。こうした和紙の歴史や技術などについてお話しします。	中森	
[ 妻木晩田遺跡体験メニュー ]				
82	妻木晩田遺跡を生かした活用の方法	弥生時代の集落遺跡である妻木晩田遺跡をフィールドにした遺跡活用の実践例を紹介します。	塚田濱本潮	体験講演